海外協定校長期派遣留学報告書

氏名：野村耕平

学部学科名：国際食料情報学部 国際農業開発学科

留学先学校名　フィリピン大学ロスバニョス校

1. 留学の目的

私が今回の留学に臨んだ目的は２つある。
1つ目は、英語でのコミュニケーション能力を向上させることである。
中学生の頃から、常に英語で他の人と会話することで英語力を高めようとしてきた。しかし、英語が広く話されている国で生活し、言語に浸かることが英語力を向上させる最善の方法だと考え、その頃から留学を志していた。
その目標を達成するために、現地でたくさんの友達を作り、彼らとたくさん話した。スラングや知らない単語の意味を尋ねたり、実際に他の会話でそれらを使ってみたりして、会話の中から学ぼうと努めた。語彙を増やすよう、常に心がけた。
その結果、フィリピン人の友人たちから「最初に話した時と比べて英語が上達した」と言われたこともあり、自身の英語でのコミュニケーション能力は確実に向上したと思う。TOFL といった試験の点数などの具体的な証拠はないが、目標を達成できたと確信している。

二つ目は、途上国の現状を自分の目で実際に確かめ、そこに暮らす人々が何を考え生きているのかを尋ねるというものであった。そしてその目的も果たすことができた。授業のフィールドワークとして、慢性的な貧困に苦しむ村を訪問し、そこに暮らす人々にインタビューをし、彼らと対話をした。

2. 現地での生活について
（住居、キャンパス、友達との交流、余暇の過ごし方など）

私は CEC という、大学キャンパス内の寮に滞在していた。フィリピンに到着してから約 1 か月間は、二人のルームメイトと共に生活をしていた。彼らはどちらも中国からの留学生で、非常に親切だった。私が現地の生活に早く慣れるためにたくさんのサポートをしてくれた。私がフィリピンに来た時には、彼らはすでにフィリピンで約 1 年生活しており、1 か月後に帰国することになっていた。彼らの帰国後、私は新しい部屋に移ることになった。新しい部屋はとても快適だった。部屋には、シャワー、トイレ、机、クローゼット、エアコンとベッドが二つあった。その部屋は 2 人用の部屋であったが、私はルームメイトがおらず、留学期間中はずっと 1 人で住んでいた。一人部屋に住むことを希望していたので、非常に快適に過ごすことができた。
キャンパスは農大よりはるかに広大で、一つの町と呼べるほどであった。キャンパスは山のふもとに位置しており、自然豊かでとても落ち着いた雰囲気だった。
現地では、たくさんの素晴らしい人たちに出会い、友人になった。私の外にも様々な国からの留学生おり、彼らは中国やフランス、韓国、カナダ、ケニヤなどから来ていた。私は彼らと昼食や夕食を共にしたり、ゲームをしたり、旅行に行ったり、

多くの素晴らしい時間を共にした。そしてそうした時間は、留学の中で一番の思い出である。

一学期目の週末は、主にフランス人やフィリピン人の友人と共にお気に入りのカフェで勉強していた。私がとっていた授業は非常に難しく、一生懸命勉強しなければついていけなかった。さらに毎週課題があり、毎月試験があったため勉強を休む暇はなかった。また、週末はジムにも通っていた。私はキャンパスの外にあるジムに通っていた。筋トレは、私にとって最高のストレス発散法の一つである。ジムには週 4 日通っている。
二学期目は、勉強においては一学期ほど忙しくなかったが、就職活動に取り組まなければならず、オンラインで面接や履歴書、ES の作成などを行っていたため、変わらず忙しかった。

UPLB では、クリスマス休暇と呼ばれる休暇が 12 月中旬に始まり、1 月末まで続く。学生のほとんどは、家族と休暇を過ごすために、学期が終わってすぐに彼らのホームタウンに帰る。中には違う島出身の学生もおり、帰省するために飛行機を使う学生もいる。私は休暇を友人とその家族と共に過ごした。彼らはパンパンガと呼ばれる彼らのホームタウンに招待してくれた。パンパンガは UPLB と同じ島にあるが、バスで 6 時間以上かかる。
フィリピンのクリスマスは、世界一長いクリスマスと呼ばれる。彼らはクリスマスの準備を当日の約 3 か月前から始める。私はモールで、「クリスマスまであと 97 日」というボードとともに大きなクリスマスツリーが飾られているのを見て非常に驚いた。フィリピンの人々の多くはカトリックを信仰しており、クリスマスは家族みんなで祝う。私の友人とその家族は、家族の一員でない私を温かく迎え入れてくれた。とても素晴らしく、感動した経験だった。

3. 留学を通じて学んだこと
「壁にぶつかったときに、周りの助けを活用する重要性」を学んだ。
私は UPLB での 1 学期目に、専攻外であった工学系の授業に挑戦した。水に関わるインフラについて学びたかったためである。しかし、工学の分野に関しての知識がほとんどない私にとって、授業を理解することは非常に難しかった。クラスメイトや先生に助けを求めたら迷惑になってしまうのではないかと考えていた私は、一人で必死に学習を続けていた。しかし状況は変わらず、最初の試験で私は 100 点満点中 30 点という結果であった。結果を返された際に先生から、「なぜもっと頼ってくれなかったのか。頼ってほしい。」と声を掛けられ、そこで今まで私が助けを求めることを躊躇していたのが、間違いであったことに気づいた。それからは、わからない部分があればクラスメイトや先生に質問し、試験前もクラスメイトと共に勉強をした。彼らのサポートのおかげで、点数を徐々に上げ、最後の試験では合格基準を超えることができた。一人で解決するのが難しい問題は多いが、そういう時こそ周囲の力を借りる重要性を、彼らの優しさから学んだ。

4. 留学経験を今後どのように活かしていきたいか
この先も、職場などで、自分一人では解決できない大きな問題に直面することがあ

ると思う。しかし留学を通して学んだ、「周りの力を活用する重要性」を思い出し、周りに協力を求め、チームで問題を解決できるような人間になっていきたい。また、自分自身も、周囲の人に助けを求められれば、すぐに役に立てるように成長したい。